

## 学校における多忙化改善に向けた取組の実施状況調査

平成30年11月実施

回答者：学校長

(対象校) 339校

|           |                 |
|-----------|-----------------|
| 市町立小学校    | 203校            |
| 市町立中学校    | 81校             |
| 市町立義務教育学校 | 2校 (集計は中学校に含める) |
| 県立中学校     | 1校              |
| 県立高等学校    | 43校             |
| 県立特別支援学校  | 9校              |

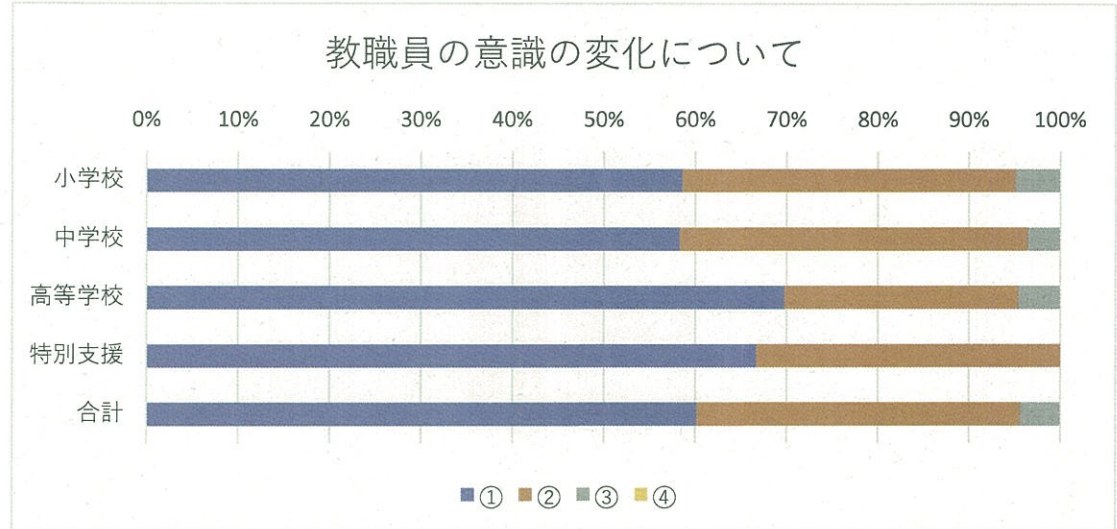
# 1 多忙化改善に向けた教職員の意識の変化について

【質問】 多忙化の改善に向けた教職員の意識の変化について、該当するもの一つを選んでください。

① 8割以上の教職員に意識の変化が見られる。      ② 半数以上 8割未満の教職員に意識の変化が見られる。

③ 意識の変化が見られる教職員も増えてきているが、まだ半数未満である。      ④ 一部の教職員に意識の変化が見られるが、大半の教職員に変化はない。

|               | ①            | ②            | ③          | ④         |
|---------------|--------------|--------------|------------|-----------|
| 小学校<br>(203校) | 119<br>58.6% | 74<br>36.5%  | 10<br>4.9% | 0<br>0.0% |
| 中学校<br>(84校)  | 49<br>58.3%  | 32<br>38.1%  | 3<br>3.6%  | 0<br>0.0% |
| 高等学校<br>(43校) | 30<br>69.8%  | 11<br>25.6%  | 2<br>4.7%  | 0<br>0.0% |
| 特別支援<br>(9校)  | 6<br>66.7%   | 3<br>33.3%   | 0<br>0.0%  | 0<br>0.0% |
| 合計            | 204<br>60.2% | 120<br>35.4% | 15<br>4.4% | 0<br>0.0% |



- ・ 約60%の学校において、8割以上の教職員に意識の変化が見られる。(60.2%)
- ・ 特に、高等学校においては、約70%の学校において、8割以上の教職員に意識の変化が見られる。(69.8%)
- ・ 約95%の学校において、半数以上の教職員に意識の変化が見られる。(95.6%)

## 2 意識の変化がみられるところ

【質問】 1における意識の変化はどのようなところに見られるか、該当するものをすべて選んでください。（複数回答可）

- ①担当業務について、趣旨やねらいを踏まえて業務内容の焦点化を図り、縮減しようとしている。 ②担当業務について、出来るところは効率化を図ろうとしている。  
 ③周囲に対して必要以上に気を遣うことなく、早く帰れる日は帰ろうとしている。 ④土曜、日曜、祝日は、出来るだけしっかり休みを取ろうとしている。  
 ⑤家族と過ごす時間や趣味の時間が増えることにより、業務に好影響が出ている教職員がいる。 ⑥その他（具体的内容は質問3に記載）

|               | ①            | ②            | ③            | ④            | ⑤          | ⑥          |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|
| 小学校<br>(203校) | 92<br>45.3%  | 177<br>87.2% | 171<br>84.2% | 124<br>61.1% | 14<br>6.9% | 10<br>4.9% |
| 中学校<br>(84校)  | 33<br>39.3%  | 72<br>85.7%  | 72<br>85.7%  | 68<br>81.0%  | 9<br>10.7% | 2<br>2.4%  |
| 高等学校<br>(43校) | 14<br>32.6%  | 40<br>93.0%  | 38<br>88.4%  | 24<br>55.8%  | 6<br>14.0% | 4<br>9.3%  |
| 特別支援<br>(9校)  | 6<br>66.7%   | 8<br>88.9%   | 6<br>66.7%   | 4<br>44.4%   | 2<br>22.2% | 0<br>0.0%  |
| 合計            | 145<br>42.8% | 297<br>87.6% | 287<br>84.7% | 220<br>64.9% | 31<br>9.1% | 16<br>4.7% |

### <その他>

(小学校)

- お互いに退校時間を確認し、早く退校しようと声をかけあっている姿がみられるようになった。
- ねらいを達成することができれば、必要以上に過剰に準備しないことが浸透してきた。
- 提案が簡潔になり、そのための文書もわかりやすく改善し主任等のスキルが向上した

(中学校)

- 月曜日から教職員が元気である。精神的な余裕が感じられる部分も見てとれる。
- 部活動を計画的に行うようになり、早めに休養日を考えるようになってきた。
- ▲部活動終了後すぐに退校する職員がいる一方、校務分掌の仕事や教材研究等で残る職員の2グループができています。

(高校・特別支援)

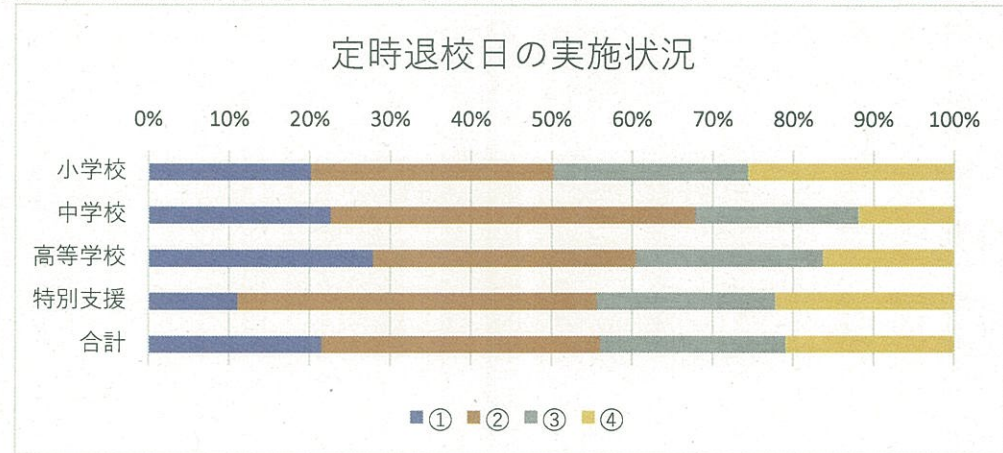
- 教科や分掌においてファイルや資料を積極的に共有している。
- 部活動について、活動内容の効率化や休養日の確保についての意識が高まり、時間外勤務時間の縮減につながっている。
- 資料室や机周りの整理整頓が意識してされるようになった。
- 教員の枠だけにとらわれることなく、自分の地域行事や地域とかかわりを持とうとしている。

### 3 月1回の定時退校日の実施状況について

【質問】定時退校日の実施状況について、直近の定時退校日について該当するものを一つ選んでください。

- ①ほぼ全員が定時に退校している。      ②全員ではないが8割以上の教職員が定時に退校している。  
 ③半数以上8割未満の教職員が定時に退校している。      ④定時に退校する教職員は半数未満である。

|               | ①           | ②            | ③           | ④           |
|---------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| 小学校<br>(203校) | 41<br>20.2% | 61<br>30.0%  | 49<br>24.1% | 52<br>25.6% |
| 中学校<br>(84校)  | 19<br>22.6% | 38<br>45.2%  | 17<br>20.2% | 10<br>11.9% |
| 高等学校<br>(43校) | 12<br>27.9% | 14<br>32.6%  | 10<br>23.3% | 7<br>16.3%  |
| 特別支援<br>(9校)  | 1<br>11.1%  | 4<br>44.4%   | 2<br>22.2%  | 2<br>22.2%  |
| 合計            | 73<br>21.5% | 117<br>34.5% | 78<br>23.0% | 71<br>20.9% |



<定時退校日の設定について>

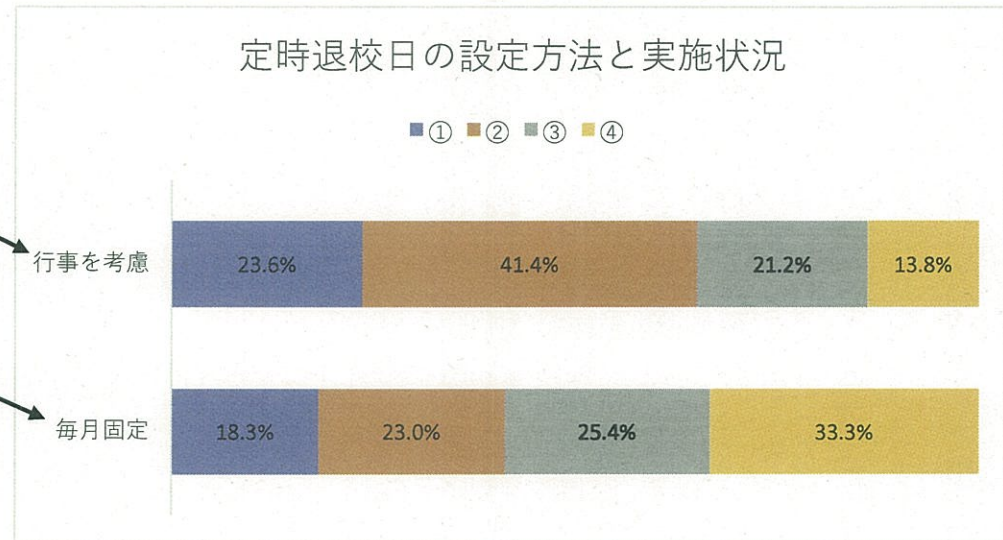
○学校行事等を考慮し、なるべく定時に帰りやすい日を選んで設定した学校

**203校**

○毎月決められた日に設定した学校

(例 第○週△曜日、毎月○日 など)

**126校**



#### 4 最終退校時刻の目標の達成状況について

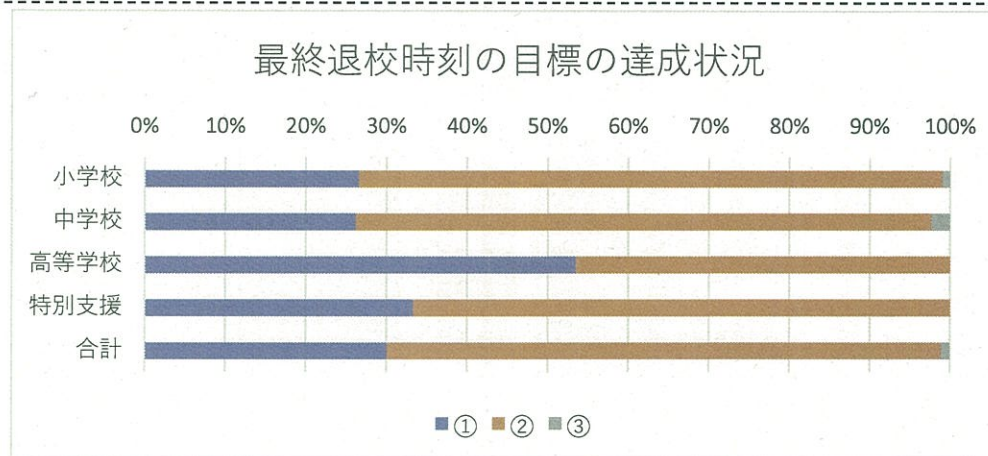
【質問】最終退校時刻の目標の達成状況について、該当するものを一つ選んでください。

①特別な用務がない限り、ほぼ全員が最終退校時刻までに退校している。

②最終退校時刻までに多くの教職員が退校しているが、一部の固定した教職員が残っている。

③最終退校時刻を過ぎても残っている教職員が多い。

|               | ①            | ②            | ③         |
|---------------|--------------|--------------|-----------|
| 小学校<br>(203校) | 54<br>26.6%  | 147<br>72.4% | 2<br>1.0% |
| 中学校<br>(84校)  | 22<br>26.2%  | 60<br>71.4%  | 2<br>2.4% |
| 高等学校<br>(43校) | 23<br>53.5%  | 20<br>46.5%  | 0<br>0.0% |
| 特別支援<br>(9校)  | 3<br>33.3%   | 6<br>66.7%   | 0<br>0.0% |
| 合計            | 102<br>30.1% | 233<br>68.7% | 4<br>1.2% |

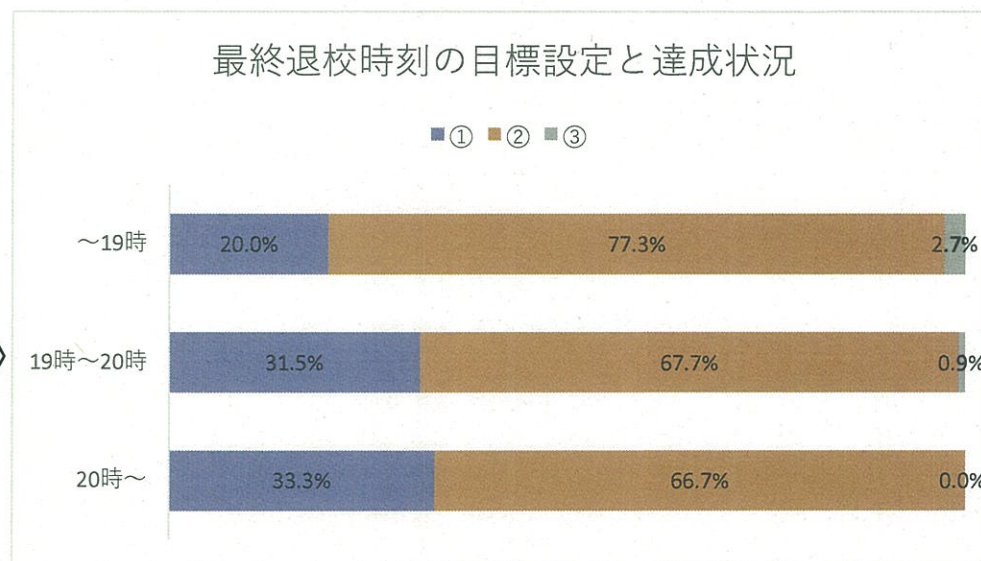


#### <最終退校時刻の目標設定について>

○19時までの時間に設定している（19時含） 75校

○19時より後で20時までの時間に設定している（20時含） 235校

○20時より後の時間に設定している。 24校

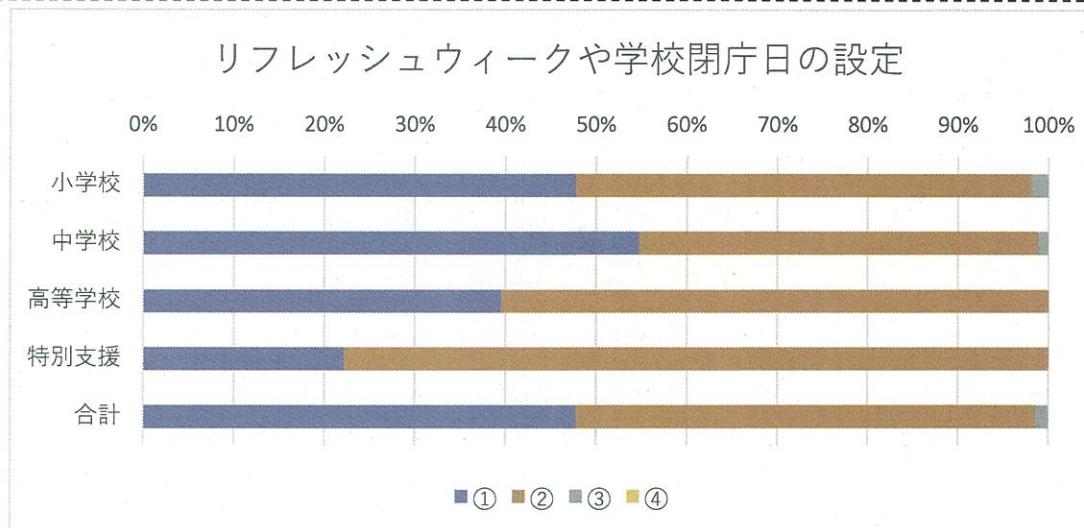


## 5 夏季休業中のリフレッシュウィークや学校閉庁日の設定について

【質問】リフレッシュウィークや学校閉庁日の設定について、該当するものを一つ選んでください。

- ①教職員の多忙化改善に大変効果があった。      ②教職員の多忙化改善に一定の効果はあった。  
 ③教職員の多忙化改善にあまり効果は感じられない。      ④他の日の業務量が増えるなど、マイナス面が大きい。

|               | ①            | ②            | ③         | ④         |
|---------------|--------------|--------------|-----------|-----------|
| 小学校<br>(203校) | 97<br>47.8%  | 102<br>50.2% | 4<br>2.0% | 0<br>0.0% |
| 中学校<br>(84校)  | 46<br>54.8%  | 37<br>44.0%  | 1<br>1.2% | 0<br>0.0% |
| 高等学校<br>(43校) | 17<br>39.5%  | 26<br>60.5%  | 0<br>0.0% | 0<br>0.0% |
| 特別支援<br>(9校)  | 2<br>22.2%   | 7<br>77.8%   | 0<br>0.0% | 0<br>0.0% |
| 合計            | 162<br>47.8% | 172<br>50.7% | 5<br>1.5% | 0<br>0.0% |



### <効果と課題、次年度への改善点など>

(小学校)

- 職員全員がゆっくり休むことができ、夏季特休も取りやすくなった。 管理職もゆっくり休めた。
- 学校閉庁日を意識して、教職員が計画的に業務を行っていたように感じる。
- ▲毎日の花壇への水遣り、飼育動物の世話、プールの水管理等への対応に課題が残る。

(中学校)

- 学校閉庁日を使って、海外や県外の旅行をする職員が増え、見聞を広めることにもつながった。
- 保護者や地域の方の理解を得やすく、休暇を取得できた。
- ▲出張等が前後に集中し、校内の会議や研修の日程調整が難しくなった。

(高校・特別支援)

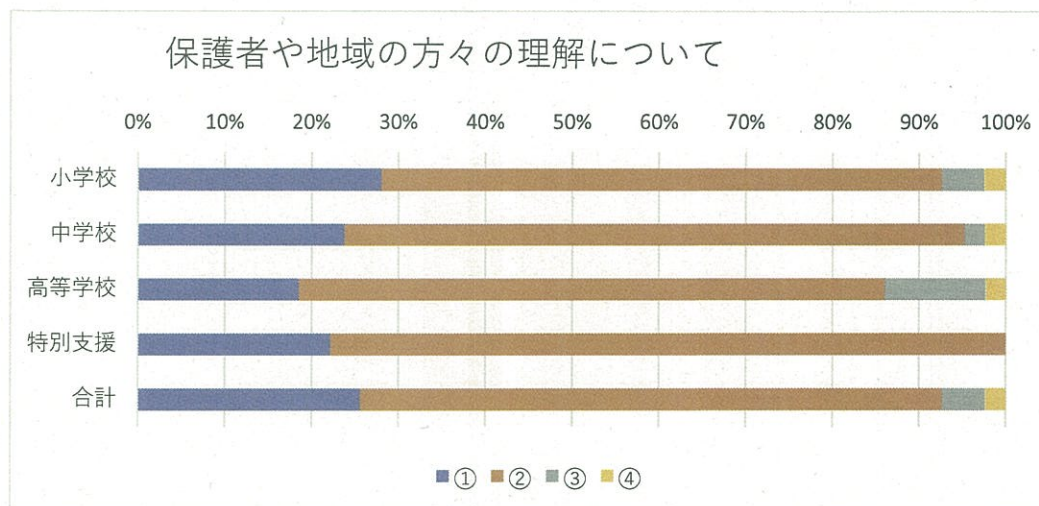
- まとめて休暇を取ることで、教職員が余裕をもって家庭や地域で時間を使う機会が増えた。
- ▲就職希望者の多い学校では、この時期、進路指導の担当者が連続した3日間を休みにすることは難しく、別の日に休暇を取得するようにした。

## 6 保護者や地域の方々の理解について

【質問】県教委作成のリーフレットの活用などにより、教職員の多忙な現状や多忙化改善に向けた取組について、保護者や地域の方々に理解と協力を求めた結果として、該当するものを一つ選んでください。

- ①理解が進んでおり、以前より協力的になっていると実感している。      ②少しずつ理解が進んでいると実感している。  
 ③元々理解されていることもあり、特に変化は感じていない。      ④あまり理解が進んでいないので、今後さらに求めていく必要がある。

|               | ①           | ②            | ③          | ④         |
|---------------|-------------|--------------|------------|-----------|
| 小学校<br>(203校) | 57<br>28.1% | 131<br>64.5% | 10<br>4.9% | 5<br>2.5% |
| 中学校<br>(84校)  | 20<br>23.8% | 60<br>71.4%  | 2<br>2.4%  | 2<br>2.4% |
| 高等学校<br>(43校) | 8<br>18.6%  | 29<br>67.4%  | 5<br>11.6% | 1<br>2.3% |
| 特別支援<br>(9校)  | 2<br>22.2%  | 7<br>77.8%   | 0<br>0.0%  | 0<br>0.0% |
| 合計            | 87<br>25.7% | 227<br>67.0% | 17<br>5.0% | 8<br>2.4% |



### <具体的な事例>

- 先生方も多忙で大変ですねという声をよく聞くようになった。
- 外部団体の行事、休日の地域行事、会合への職員参加の要請が減少しつつある。
- 土・日の忘れ物を取りに来る児童が減った。遅い時間帯の電話が減った。
- PTA役員等の理解が深まり、PTAの会合終了時刻を早めることや、学校の教育活動へのボランティア参加など、より協力が得られた。
- 部活動の休養日設定の目的の理解が進み、スムーズに実行に移すことができた。
- 夏季休業中の休日や学校閉庁日に学校花壇の水やりの協力を、地域の団体が集まる会でしたところ、協力の申し出があった。
- 夏季休業中に実施していた週休日の巡視を、PTAの理解のもと廃止した。

## 7 学校における取組について、効果のあったもの（抜粋）

### 勤務時間の管理、意識改革

- ・効率的に業務を行うベテラン職員の話聞く校内研修を実施し、計画的に仕事をするを、見習おうとする職員が増えてきた。（小）
- ・毎週水曜は「フログ day」とし 18:20 には帰る日を設定したところ、初めは難しい面もあったが段々と定着してきている。リフレッシュでき、木曜日に教師からの児童への褒め言葉が増えている。（小）
- ・民間企業から講師を招き、業務改善の職員向けの研修会を開いたことにより、職員室や資料室、机周りなど、身辺整理の意識が高まった。（中）

### 校内の会議・研修等

- ・会議は延長しないという共通理解を図り、勤務時間内に終える意識が高まった。その結果、ポイントを押さえた提案を行う職員が増え、会議の効率が上がった。（小）
- ・長期休業中に定例の行事等の協議をまとめて会議で扱うことで、授業日の会議の時間が半減し、見通しを持って十分な準備のもとに実施できた。（小）
- ・職員会議でグループウェアの電子会議室やタブレット端末を利用し、ペーパーレス化を実施したので、印刷時間の縮減が図られた。（小・中・高）
- ・提案を分類している。①職員会議で説明 ②職員会議で文書配付のみ ③職員朝礼で説明 ④職員朝礼で文書配付のみ ⑤職員室の予定黒板に掲示のみ（小）
- ・学年会や生徒指導委員会、教科部会を時間割の中に位置づけることで、放課後の会議を減らした。（中）
- ・職員会議を水曜 6 限目に月に 2 度（各 1 時間×2）位置付けたことで、短時間で効率的な会の運営となった。（中）
- ・ランチミーティングとして給食を持ち寄っての会議（研究委員会、教育相談委員会、若手研修）を実施、放課後の会議を減らした。（中）
- ・毎月行っている職員会議について、議題が少ない月の職員会議を省略し、業務にかける時間を確保した。（高）
- ・定期考査期間中の午後に会議等を実施しないことにより、作問や採点に集中できるようになったこと。（高）

### 学校が行う調査・連絡等

- ・紙の文書で保護者に配布していた学年別や P T A のお知らせ等、電子メールで一斉に連絡できるようにした。（小）
- ・各分掌から出ていたアンケートを一本化し、精選した。（小）
- ・アンケート結果の集計フォームの電子化で、分析までの作業の効率化に取り組んだ。（小）
- ・アンケートの調査項目の精選と、マークシート回答による集計の機械化。電子ファイルへ直接入力にして、担当業務を縮減した。（中）
- ・各種調査にはマークシート、教職員への連絡にはグループウェアを積極的に活用し、効率化を図った。（高）
- ・生徒への伝達事項をタブレット端末で確認するため、担任が打合せでメモを取る必要がない。（高）



### 校務分掌・学校行事・日課等

- ・児童の発表会を保護者の理解を得ながら削減し、その分、6年生を送る会の質を上げることにした。(小)
- ・運動会について、保護者の理解を得た上で種目を減らして終了時刻を早めたり、事前の練習時間を縮減することで、他の業務時間を確保した。(小・中)
- ・長距離継走大会について、学校行事として実施していたものを体育の授業の中で実施することにより、事前準備等を簡略化した。(中)
- ・行事等の終了後に、反省に基づいた次年度案を作成し、保存している。(小)
- ・学級の朝礼・終礼、宿題・生活記録の点検、給食指導を担当、副担任で分担している。(中)
- ・引き継ぎ書を作成することで、初めて担当する者でも、その業務の概要や年間の流れを知ることができ、年度当初の業務負担の軽減を図っている。(小)
- ・日課の短縮(朝の会後の移動時間・掃除後の移動時間・昼休み時間の短縮)により、放課後の時間を増やした。(小)
- ・各学年の集金業務を一括して担当を事務職員とすることにより、業務を効率化し、教員の負担を軽減した。(中)

### 校内の環境整備・ICT化

- ・夏季休業中に、職員室、印刷室、教材室の整理や、帳簿・冊子を閲覧しやすいよう整理・分類し、効率的に業務が行えるようにした。(小)
- ・教材や学年資料等のデータベース化を進め、共有化を図った。(小)
- ・サーバ内のフォルダを整理することにより、電子ファイルを探しやすくなることで、共有化しやすくなった。(小)
- ・タブレット端末をワイヤレスでテレビに接続できるようにしたことで、手軽に画像や動画が見られるようになった。(小)
- ・受付文書をpdf化し、電子保存することで、文書の保管・検索の効率化が図れた。(中)
- ・パソコンの効果的な活用の講習会が、教職員の事務処理能力を高め、授業の準備の時間の縮減につながっている。(中)
- ・校内WEB掲示板を作り、毎日の業務連絡、生徒の欠席連絡、保健室利用者等がパソコンでわかるようにした。(高)
- ・出張伺・復命書等をエクセルマクロで電子化・自動化することで業務の効率化を図った。(高)

### 地域との連携

- ・町民運動会と同日開催されている運動会や、農産物品評会と合同開催されている文化祭など、学校と地域が連携した行事に対して、地域や保護者に担ってもらう役割を増やしてもらうようお願いし、協力が増えている。(小)
- ・畑作りや草むしり、運動会の準備・片付けなどにおいては、PTAや地域に協力を依頼している。(小)
- ・花壇ボランティア、学童農園ボランティアを依頼することで、教職員の業務縮減に繋がっている。(小・中)
- ・一部の部活動の指導を地域の方に依頼したことで、経験のない顧問の負担を軽減した。(高)
- ・夜間のバス停見守り隊活動を地域のPTAに任せることで、教職員の業務縮減に繋がっている。(高)

## 8 今年度の多忙化改善に向けた取組のうち、うまくいかなかった事例や課題が多かった事例

- ・早く退校することをあまり言いすぎると、土日に来て仕事をしていたりする職員もいた。(小)
- ・保護者アンケートなどアンケートの集計を手作業から電子化による効率化を図りたかったが、ノウハウがないため未実施である。(小)
- ・地域・ボランティア等へのご案内について郵送に変えることで負担軽減も考えたが、費用負担を考えると実施できなかった。
- ・外部からの学校配布物の仕分けに取り組んだが、あまりに種類や量が多く、それらの取捨選択に時間がかかった。(小)
- ・会議短縮及び削減に伴い、打ち合わせが不十分のところがあり、各担当任せになってしまい、行事等に支障が出た。(小)
- ・保護者用にメール配信を行っているが、加入率が低く、結局、通知文を出し、2度手間になってしまった。(中)

## 部活動における土日等の休養日の実施状況について

◆調査期間 4月～9月(26週)

◆調査対象 ①県内公立中学校(84校)……………運動部805部、文化部240部

②県内公立全日制高等学校(40校)……運動部559部、文化部426部

|                  | 平均日数  | 26日以上 | 21～25日 | 16～20日 | 11～15日 | 10日以下 |
|------------------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|
| 中学校運動部<br>(805部) | 27.9日 | 513   | 218    | 60     | 10     | 4     |
|                  |       | 63.7% | 27.1%  | 7.5%   | 1.2%   | 0.5%  |
| 中学校文化部<br>(240部) | 47.0日 | 220   | 15     | 5      | 0      | 0     |
|                  |       | 91.7% | 6.3%   | 2.1%   | 0.0%   | 0.0%  |
| 高校運動部<br>(559部)  | 27.7日 | 309   | 134    | 64     | 29     | 23    |
|                  |       | 55.3% | 24.0%  | 11.4%  | 5.2%   | 4.1%  |
| 高校文化部<br>(426部)  | 51.7日 | 414   | 6      | 3      | 2      | 1     |
|                  |       | 97.2% | 1.4%   | 0.7%   | 0.5%   | 0.2%  |